

「市長と語ろう！～みらいの立川を創る～」 in 若葉会館【概要】

平成30年 9 月29日（土）

11時00分～12時30分

若葉会館

1 開会の挨拶

実はここへ来る前に、立川駐屯地の防災航空祭というお祭りに行って参りました。立川駐屯地というのはヘリコプターを中心に活動している自衛隊の基地なんですが、非常に重要な仕事をしており、沖縄から北海道へ一足飛びに行けないので、途中で燃料を補給したり、東京周辺で物資を補給したりと非常に重要な場所に位置しています。

それから、もう一つ重要なのは、国立病院機構災害医療センターがあります。例えば大震災、東日本震災で重傷を負って手に負えないような方々は国立病院機構災害医療センターへ輸送して、治療をしたという実績があるんですね。

あと、DMATというのをご存じでしょうか。お医者さんたちが集中的に災害地へ医療派遣、医療関係のバックアップをする組織があり、その本部が国立病院機構災害医療センターにあります。ですから、いざという時の日本の医療体制は国立病院機構災害医療センターを中心にして回っていくことになります。

そういう面では、立川には日本中から色々な方が集まってきてくれます。今、立川は「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」を標語にしてまちづくりを行っています。日本中から、あるいは世界中から立川へ大勢の方が集まってくるという方向になってまいりました。このいい流れを今後も育てていきたいなと私としては思っているところでございます。

今日は、ぜひ皆さんからお声を聞きたいのは、3年前から第4次長期総合計画という10年計画を立てました。それまでは15年を1つの計画の区切りにしていたのですが、15年は長過ぎて、15年先を見通すことは我々には出来ないと。だからもっと短くしようということで10年にしました。しかし、10年にしても、科学の発達や世の中の変貌が速く、間に合わないで、途中の5年間で見直しをしようということで、今年が4年目ですから来年度末にはその見直しをして、次の5年のスタートをしていこうということです。そのために、市民の皆さんから直接、生の声をお聞きする中で、今後の長期総合計画の後半部分へ生かしていこうというのが一番大きな狙いです。

ですから、皆さんが日常生活でお困りのこと、改善をして欲しいこと、お気づきの点があると思いますが、それらを忌憚なくお聞かせいただいて、後期の長期総合計画の中に生かしたいと思っておりますので、こんなことを言ったら少しおかしいかなんていう疑問はなしにして、率直にお聞きいただいて、それでご納得なり、あるいは将来へ希望を持った答えということで受け取っていただければありがたいなと思っておりますので、宜しくお願いします。

2 意見交換

（参加者）

くるりんバスに関して、若葉町地区のくるりんバスは、プラスマイナスを考えたら十分に人が乗っていたので、何で無くなったのかなという思いがあります。ぜひ、復活して欲

しいです。

あと、学校が統合されて1つになります。残った旧若葉小学校の使い方等に関してはどのようにお考えなのかを伺いたいと思います。

(市長)

若葉小学校ですが若葉町の皆さんにも参加していただいて、どうやって若葉小を活用していくかという協議会をつくります。私どもが考えているのは、清掃工場があと4年経つと無くなってしまいます。そうすると、跡地に、あれだけの広い土地が空いてくるわけです。それを単独でやるよりも、若葉町全体を見据えた中で、清掃工場と若葉小学校の跡地をリンクさせて、有機的に利用できるかという、協議会をつくります。地元の皆さんに入っただいて、お声を聞かせていただいて、それで将来計画を立ててまいりたい。

(総合政策部長)

くるりんバスについてご説明いたします。

ご案内のように、くるりんバスの再編計画というのが、5年程前からございます。やはり一番は収益がなかなか上がらず、毎年6,000万以上の補助金を支出しながらくるりんバスを運営してきた経過があります。そんなこともあり、新たな試みも必要だということから、くるりんバスの再編計画を、25年10月に市民アンケートをかけました。

アンケートの結果と、それから、地域公共交通会議といいまして、公募市民の方や事業者等が入り色々と検討を重ねたんです。収益の関係と、あとは、元々くるりんバスというのは交通不便地域に対してルートを作ろうということが大きなコンセプトですので、立川バス等が入っているルートについては、そこは避けようと、このような形で色々と議論がありまして、現在のルートになってございます。

現在のルートも5ルートあり、これらについては今、ある程度の期間、試し運転を実証運行ということでやってございます。

これまで試し運転をやってきていますが、西砂ルートと錦ルートについては、比較的多くの方に乗っていただきまして、収支もある程度上がっているということ、それから、市民の方もある程度喜んでいただいています。一番ルートと砂川ルート、曙ルートについては、まだまだ収支に課題もあるし、お客様からは、ルートを変えていただきたいというような声はかなり強いということで、試行的に実証運行という形です。この実証運行をしばらく続けながら、もう少し市民の声、あるいは、先ほど言いました会議の中で、実証運行の結果を踏まえながらルートをもう一度考えてみましょう、今、そういう状況です。

ですので、このままルートが固まってしまうということではなくて、少しお時間をいただきますけれども、ルートについては検討を加えていくということでございますので、このところはそういう状況だということでご了承いただければと思います。

それから、若葉小学校の跡地については、市長からのご答弁の通りでございますけれども、この地域は、若葉台小学校の件、それから清掃工場の件、あとは都市計画道路の件、団地の再生の件といろいろあります。この地域は、まち全体をマネジメントしていくということで、まち全体の中で若葉小学校の跡地をどうするかを考えるため、この夏に庁内の検討委員会を組織していますので、状況を今いろいろと、検討しているところでございます。なるべく早目に市民の方にはこういう方向でということで、それも行政側が一方的に決める話ではないですので、ある時点になりましたら市民の方に入っただいてワークショップみたいな形を開きながら、まちづくりも含めた若葉小学校の跡の使い方、あるい

は清掃工場の跡の使い方、こういったものを考えていきたいと、そういう状況になってございます。

(参加者)

旧若葉小学校をそのまま使おうという認識はないですか。

(総合政策部長)

学校としては無くなりますけど、一つ、大きな問題としては、防災の避難場所になっていますので、それはどうしても拠点として残さなければいけません。あとは、校庭、校舎、プール等もございます。こういったものを含めてどういう活用がいいかということで、これから、先ほど言った順番で検討をしていきたいと、そういうことでございます。

(参加者)

私は、住民の声を聞いてから全てのことを決めて欲しいと思います。協議会を作ってから住民に案を出すパターンが今までずっとあったと思うんですが、その姿勢をやめていただきたいと思います。

ですから、最初に住民の声を徹底して聞いて欲しいです。アンケートを出したけどありませんでしたではなくて、徹底して聞く努力をして欲しいです。全世帯にアンケートを取りきるということをやって欲しいです。

それから、くるりんバスのことについても、収益が上がらないからという、この姿勢をやめて欲しいです。収益を上げるのではなく、市なんですから福祉バスに切り替えて欲しい。くるりんバスの運行についても、徹底的にそこに出向いてお聞きし、その中からどういう声があるかを集約して、各方面の専門家や色々な方々を募って、それで協議会を作れば良いと思います。

協議会をつくり、市民に出たときには青写真があって、こういうことをやりますけど、いかがですかとなっているんですね。その姿勢を変えて、まず、住民の声を聞き切るということをやって欲しいと思います。皆さん新しい学校ができることを祝福しています。だけど、その経過は、手続は踏んでいます、最初の住民の一人ひとりに聞いていくという手順がなかったんです

私は、子どもがボール遊びもでき、子育て世帯の人もくつろげる大きな公園が欲しいです。日野市では、4つか5つ、広大な公園がつくられています。それは、市の職員が、どんな公園がいいかを住民に徹底して聞いていた時期があるそうです。ですから、そういう姿勢に改めてほしいと思います。マネジメントはやめてほしいです。

(市長)

私どもとしては、市民の皆さんのお声を十分に聞いているつもりでおります。多くの意見をまとめるのには、ある程度のたたき台というのが必要になります。個人個人の意見を持っているのは、当然なんですね。マネジメントという言葉が嫌でしたら、たたき台ということでご理解をいただきたい。そうでないと、大勢で会議をする場合には前へ進まなくなってしまう。

お声を聞いて、まず、たたき台をつくる。そして、そのたたき台でいかがでしょうかと提示をさせていただく。そういうステップを踏んでいきたいと考えています。

(参加者)

若葉町は2年前に、再編計画でくるりんバスが無くなりました。高齢化となり、免許証を返上する方が増えています。免許証を返上した後、買い物や病院をどうするのかという声が大変たくさん出ています。

そういう点では、コミュニティバスというものをもう少し福祉の立場で考えていただきたいと思っています。この30年間、全国的に広がりまして、大体が料金も均一100円ぐらいでやっています。基本的には黒字になるというのは難しいので、やはり福祉や高齢化社会対策という立場でコミュニティバスのことは考えるべきだと感じています。

皆さんがどのように考えているのか、一度綿密な調査をしていただきたいと思います。交通に対する空白地帯ですから、市役所や、病院、銀行に行くにしてもやはり身近なコミュニティバスをもっと充実させてもらいたいというのが私たちの要求です。

それから、料金の問題ですけれども、100円から180円に上げたわけですけれども、民営のバスも赤字になるような状況が続いていますので、これは市としてもきちっと対応を考えていってもらいたいと思っています。

若葉コースをまずは、復活してもらいたいというのが1つは要望としてあります。

それから、デマンドの形で日野や西東京が導入しているように、狭いところでも入れるような交通手段、これをぜひご検討いただきたい。

(市長)

仰ることはよく分かりますが、行政を存続させていく義務も私どもにはあり、超高齢化の中で、バスだけでなく、全ての行政の施策が今、問われておりますから、複合的に考えていかないと行政が成り立っていかない。くるりんバスの関係も、若葉町よりもバス網が粗雑で不便な場所もまだあり、全体を考えていかないといけないと思っています。しかし、今のところ、わずかながら人口は増えておりまして、助かっていますけれども、それは自然増でなくて、社会増なんです。幾ら増えたといっても、社会増でありますと、いつ出ていってしまうか分からない。地域に今まで関係のなかった人たちが、仕事の関係、学校の関係で来て、いなくなる可能性が非常に多い。私としては、今、若干増えている人口増の内容については、極度に緊張しながら見ております。

少子高齢化になる中で、費用負担はどんどん若い人達に掛かってしまう。そこをどう考えなければいけないかということも視野に入れながら、超高齢社会の今後の対応を何とか見出したいですが、上手い解決策が見つからないのが現状であり、国の方々あるいは周辺の自治体の方々と一緒に、ご相談をしながらやってまいりたいなど。

一つだけ、少し希望が持てるのは、多くの自治体と一緒に共同化することによって全ての市民サービスが少しでもコストダウンできるんじゃないか、これが一つのキーポイントになると思います。

バスの関係でも、それを共同化して、一緒にバスを運行しようじゃないかという話だっただけからできるわけですから。ちょうど立川を中心に近隣8市で協議会を作り、いろいろな形で一緒にやっていく事業を探して、一緒に行おうじゃないかという議論を今、している最中でございまして、その関係で一つだけ、図書館の共同利用というのはあつという間に見つかり一つの利用券で全部利用出来るよというような形に今、なっております。

公共交通に関しましても、そういう手が使えれば良いかなとも思いますけれども、これからさらに研究してまいりたいと思っています。

(参加者)

くるりんバスの件で、まちの様子もよくわからずに、市役所や病院への行き方で迷っていた時期に、自分の家から少し出たところにくるりんバスが止まって、昭和記念公園のところを通過して市役所まで行くので、とてもありがたかった。

2年前に、路線が廃止されて、民間の路線があるところは通さないとか、収益が上がらないということで、市政って収益を考えるの？って、率直に疑問に思いました。

それ以来、昭和記念公園に全然行かなくなっていました。収益とかそういうことではなくて、市民の文化と暮らしを守るという視点で復活していただきたいなと思います。

それと、立川市議会報に、「東京都シルバーパスの負担軽減と制度改善を求める陳情」というのが出ていて、それは継続審議になっているみたいですが、ぜひ、東京都へ強く要求して、この陳情を通して欲しい。

(市長)

くるりんバスの件は、経費ができるだけ安く運営をするのは私どもの責任だと思っています。いずれにしても、試行の中からまた次の策を見出しながら、皆さん方の声を生かしてまいりたいなと考えています。

シルバーパスですが、議会と私のほうは全く違う組織なんです。ですから、議会で議論をしていることについて、市長の方から注文をつけることは、仕組み上出来ないんです。出来るのは、議会の事務局長に、こういう声がありましたよということを伝えるということ、たちが最大限かなと思います。

(参加者)

学校給食のことですけれども、センター方式で、小・中学校を一つにまとめた場所で作るということを聞きました。食中毒や、アレルギーに対するきめ細やかな対応はどう考えていますか。センター方式でやるということも、いつの間にか決まったのかなという感じで思っていますけれども、ぜひ再検討をお願いしたいと思います。

(市長)

センター方式でやると決定しております。議会にもそう説明しております。

アレルギー対策については、先進の中学校給食、センター方式でやっている都市のいろいろなお話も聞いていますが、より緻密に、各校方式よりもはるかに緻密なアレルギー対応ができますという現実を幾つも聞いております。

それから、食中毒に対しても同様です。昨年、きざみノリを原因とする食中毒が起きて、大変申しわけないと思っておりますが、それまできざみノリから食中毒になると考えられなかったが、さらにきちんとした食中毒対応ができと思っています。

ご父母の負担も少ない、税金の投与も少ない、一定以上のレベルの食事を摂ることが出来るということで、センター方式は決定いたしました。

なお、用地については、基地跡地のところを国から売っていただけるというお返事をいただきましたので、5年か6年後にはスタートするという段取りになっております。

(参加者)

温かい食事を美味しく子どもたちに与えるというのは限度があると思うんです。それを今後、今ある自校方式でやっているところを潰して、小学校、中学校をまとめて一つのと

ころにつくるのは、リスクが高いと思います。センター方式がどれだけいいものかどうか知りませんが。

（総合政策部長）

小学校の単独校につきましては、それなりに良さはありますが、私どもとして一番考えているのは、アレルギーの問題です。今、単独校でアレルギー食につきましては、同じ部屋の中で場所を変えてアレルギー食を作っているということがございます。

HACCPという基準がございまして、アレルギー食につきましては、別室で、部屋を分けて作らなければいけないという形になっています。今の単独校の中では、物理的にも中々そういうのは厳しいという状況がございしますので、私たちは、まずはアレルギー対策としてはやっぱりセンター方式が一番よろしいということでございます。

単独校は単独校の良さはありますが、決してセンター方式も見劣りするものではないということをぜひご理解いただきながら私どもは進めていきたいと考えています。

あと、調理場の場所は市の中心地になりますので、かなり早い時間で各学校に配食ができると考えてございます。まだ反対の方も多くいらっしゃると思いますので、教育のほうから説明に今後も伺っていききたいと考えていますが、この場ではご了解いただきたい。

（参加者）

市長とのタウンミーティングは2度目で、学習館のトイレを洋式にして綺麗にしてくださいというお願いをしたのですが、どのくらい進んでいるのでしょうか。

それと、若葉小学校の跡地は、図書館にして欲しいです。若葉図書館が手狭ですし、歩道の道幅が狭く、この通りはとても危険です。図書館や学習館を向こうに移して欲しいなと思っています。

それと、武蔵野大学の方までバスが若葉町団地から通るようになりまして、学生が結構乗っているんですね。そういう大学生を利用して、学習館をやるとか、子ども食堂とか、そういう子供に関することでの跡地利用をお願いしたい。

それと私は、老人は健康を自分で維持するという方向性を身につけてほしい。そういう何かやり方というか、健康に過ごす方法をもうすこし普及させるようにしていただきたいと思っています。

（市長）

若葉小跡を図書館や子ども食堂や学習館として使うということで、興味深いご意見で、参考にさせていただきます。

それから、健康維持というのは、個人の価値観に帰すものと思っていますが、そうも言っておられません。市としても、何らかの形で道筋だけのご提示しないといけないと思っていますので、高齢者医療よりも、高齢者健康保持みたいな、そんな思いを持ちながらやっていきたいなと考えております。

（総合政策部長）

トイレについては、そういうお声を主管課に伝えていまして、トイレだけではなくて、冷房や、もちろん施設全ての老朽化にも絡んでいるので、全てを一遍にというわけにはいかないの、計画で順序立ててやっています。

(参加者)

あまりにも近代的なおトイレじゃなくて、洋式で水が流れればいいという、蓋なんか要らないと思うんですね。だから、デザインをまずシンプルなのがいいと思います。

(総合政策部長)

その辺も主管課に伝えておきます。

(参加者)

寿の会とシルバー大学がありますよね。これをちょっと改善したらどうかと思っています。来る人は同じ人、来ない人は来ないんです。みんなで出来るようなシステムに方向転換していただきたいです。

(市長)

おっしゃる通りで、見直しをしていかないと、何のための会なのか、分からなくなってしまう。きちんと担当を通して皆さんにご相談させていただきます。

(参加者)

若葉町はすごく緑も多くあって、すごく子育てにも便利なまちだと感じています。

踊りや音楽を通して子どもたちの自己肯定感を高めたり、自己表現をする楽しさを伝えたりする活動をしています。この活動を市や市長にも知っていただきたいです。

(参加者)

市議会議員というのがどういう立場なのかというのは私もよくわかりませんが、もう少し住民に密着するような活動ができないのか。

大きな会合、例えばパトロールの会ですと、六十何名参加しているんですよ。そういう人たちが参加するときにも、市議会の方は誰も参加していません。つまり、どうやったら住民の声を幅広く吸い上げられるか。市長との対話だけでなく、議員の活動というのをもう少しみんなで考えていただきたい。こういう声があるんだということを議員の方々に訴えていただきたい。そうすればもう少し皆さん方の声が、いろいろな角度から声が出てくるのではと思います。

ですので、自治会もいろいろな活動をしますけれども、そういうところにおぎなりで出てくるような議員ではなくて、もう少し市民に密着した活動をしていただきたい、そのように私は常に思っています。それなりの報酬をもらっているのであれば、それなりの活動をしていただきたいというのが私の願いです。

(市長)

市議会議員には、個人が有権者から選ばれて議会活動をするという大前提ですから、一人ひとりがそれぞれ責任を持って活動をするということが原則です。

先ほどちょっと申し上げましたけれども、市長の立場から、議員の、あるいは市議会の動きについて注文をつけるというわけにはいきません。市議会の場合には、広く市民の声を吸い上げるべきだ、市民の声を反映するべきだと、そのことによって政策を固めて、そして市長にそれを物申すと、こういう立場にあるわけですから、それぞれご自分の責任、能力においてご活動いただいているわけですから、先ほどと同じように、公式に申し上げる立場には全くないということですね。

(参加者)

市民の声を広く吸い上げるということであれば、具体的な活動をしてほしいということです。自治会はそのための協力は惜しまないと思います。ですから、個人個人にお任せするのではなくて、議員の自覚をもう少し促すような声かけをしていただきたいということです。

(市長)

その声かけについては、私が、議員の行動をどのようにするかということではなくて、若葉会館でのタウンミーティングの中でこういう発言が私にあったので、本来は議会へ言いたいことなんだけれども、議会事務局に伝えて、議員の皆さんの参考にしてくださいというところまでが私の限度です。

(参加者)

偏差値についてどのような考え方を持って教育されているのか。

(市長)

私は、偏差値につきましては、小・中学校の子どもたちが共通の試験を受けて、その出来が良かったか悪かったかという点数をつけた数字であろうかなというふうに思っています。

(参加者)

都市計画道路の凍結についてお願いいたします。今、若葉町を分断する都市計画道路が2年前から進行しております。場所をご承知かと思いますが、五日市街道の若葉会館の少し東京寄りから縦におりる道、これは3・4・21号線計画、それからもう一つ、横に3・4・15号。これに対して2回ほど説明会をしてもらい、当然、住民も多く出席しまして、賛成の方も反対の方も大勢おられました。実は私の家も恐らく引っ掛かる予定ですが、検討する時間がもう少しないだろうかと思ひまして、この道路対策の若葉町の会というのを立ち上げました。

もっと住民の意見が市役所及び国、都に届かないかなということで、アンケートを実は取りました。

今回、この縦の線、横の線に該当の世帯が大体100戸あります。この100戸に対して1軒1軒を巡回しまして、約60戸から回答をいただきました。そのうち、反対が18、賛成が19、どちらでもいいよというのが23ということでございます。

反対意見の中で一番多いのは、やはり騒音が出る。それと、建設費に40億円もかかると。このお金は、東京都、国からも出るし、立川市はわずかなようではございますけれども、こんなに大きなお金、多額のお金を使って、この道路を作るのは、どう見ても納得がいけないという方が反対の人の主な意見です。賛成意見の方は、利便が良い、歩道がある道路があつていい、反対する理由がない等。どちらでも良い方は、行政がしてくれるからいいでしょうと。そういったことがございました。

市長も東京都では小金井市、小平市、立川でも羽衣町、区内でも豊島区とか、色々なところで反対及び見直し、凍結、そういう運動が起きているのはご存じかと思ひます。

東京都議会でも都市計画道路のあり方について都議から質問がありまして、小池東京都知事もその際に、都市計画道路は見直しを随時行ってまいりますと、あと、今後も大胆に見

直しますと、しかし、進めるものは進めると、そういった東京都知事のお話もございます。

東京都は超高齢化社会で、道路を作ることが高齢化にどう対応するかと、結びつかないんじゃないかなと。若葉町にしても、立川市全体にしても、これだけ道路があるわけなので。

（市長）

都市計画道路につきましては、東京都が東京都全体を見渡す中で、この地域にはこれだけの道路が必要だろうという計画のもとに作っているわけですし、このことについて、私どもが良いとか悪いとかと言う立場にはありません。

少なくとも、まちの生成、まちをつくっていくためには基幹となる骨を通さなければならない。すなわち、しっかりとした道路を何本か通して、そして枝線をつくる中でまちの形成を図っていくというのが基本ですから、東京都が、広い視野の中でそういう都市計画道路をつくって、計画をしているということだと思います。長い目で見れば、私は、都市計画道路というのは非常に大きな力を発揮できるものだなというふうに思っています。

3 閉会の挨拶

（市長）

どうも今日はありがとうございました。

本当に出席の皆様、ほぼ100%近い方にご発言をいただきました。中々20人以上お集まりの中で、これだけの方にそれぞれご発言をいただくというのはまれに見ることでございました。活発な意見を頂戴したというのは大変嬉しく思っているところでございます。いただきました意見につきましては、今後の10年計画のうちの後半5年間の中へどういう形で意見が反映できるかどうか、これはまた専門の立場の職員にもアドバイス、意見を聞くなどをする中で対応を図ってまいりたいと考えております。

どうぞまた、折に触れて、それぞれのご希望があらうかとも存じます。市長に対する葉書はおそらくここにもあらうかと思えます。もし気がついたようでしたらまた、葉書でも結構でございますので、いただければと思っています。今日は大変どうもありがとうございました。